

千葉県の「人口ビジョン」骨子（案）

I 千葉県の人口の状況分析

(1) 千葉県の状況

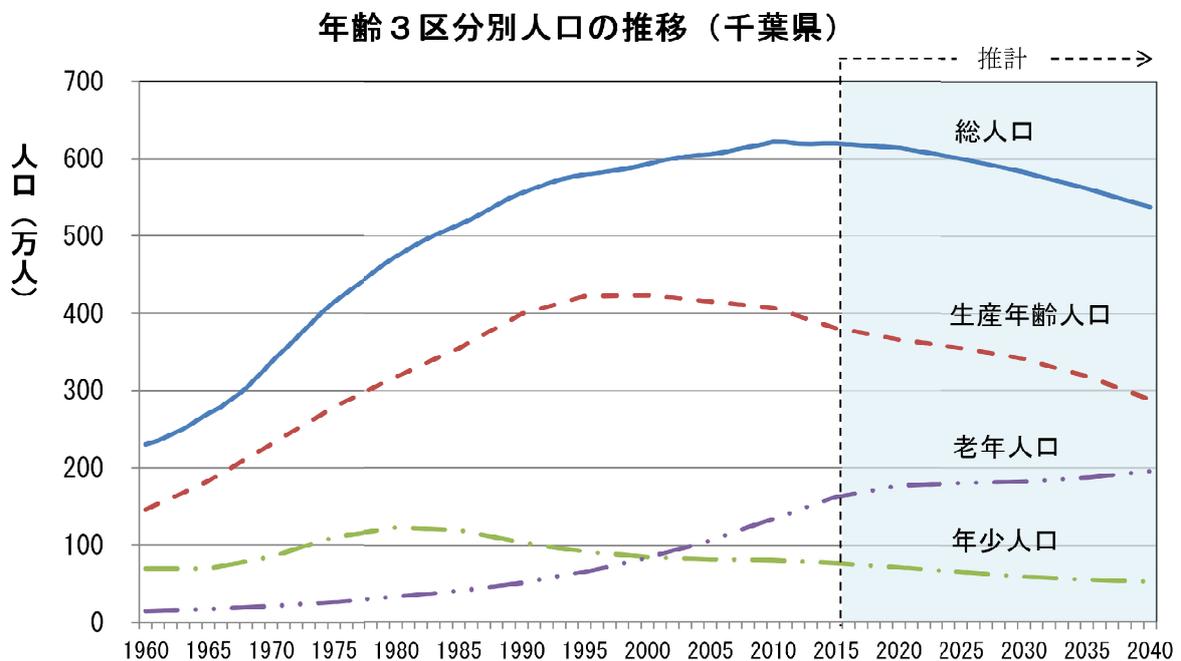
◆本県の総人口は、2010 年をピークに、2011 年に人口が減少に転じ、その後 2014 年に改めて増加に転じた。

なお、今後については、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の将来推計を一部再計算した推計（※1）（以下「社人研推計（一部再計算）」という。）によると、2010 年からの 30 年間で約 84 万人、13.5%減少し、生産年齢人口（※2）は 29.1%減少する見込みとなる。

※1…社人研の推計では、千葉市中央区・稲毛区、柏市、我孫子市、浦安市の 5 市区においては震災の影響が 10 年続くものと仮定して推計を行っているが、既に人口動態は回復基調にあることから、社人研推計より早期に震災以前の趨勢に戻ると仮定し再計算を行った。

※2…「生産年齢人口」とは 15 歳から 64 歳までの人口である。

また、「年少人口」は 0 歳から 14 歳までの、「老年人口」は 65 歳以上の人口である。



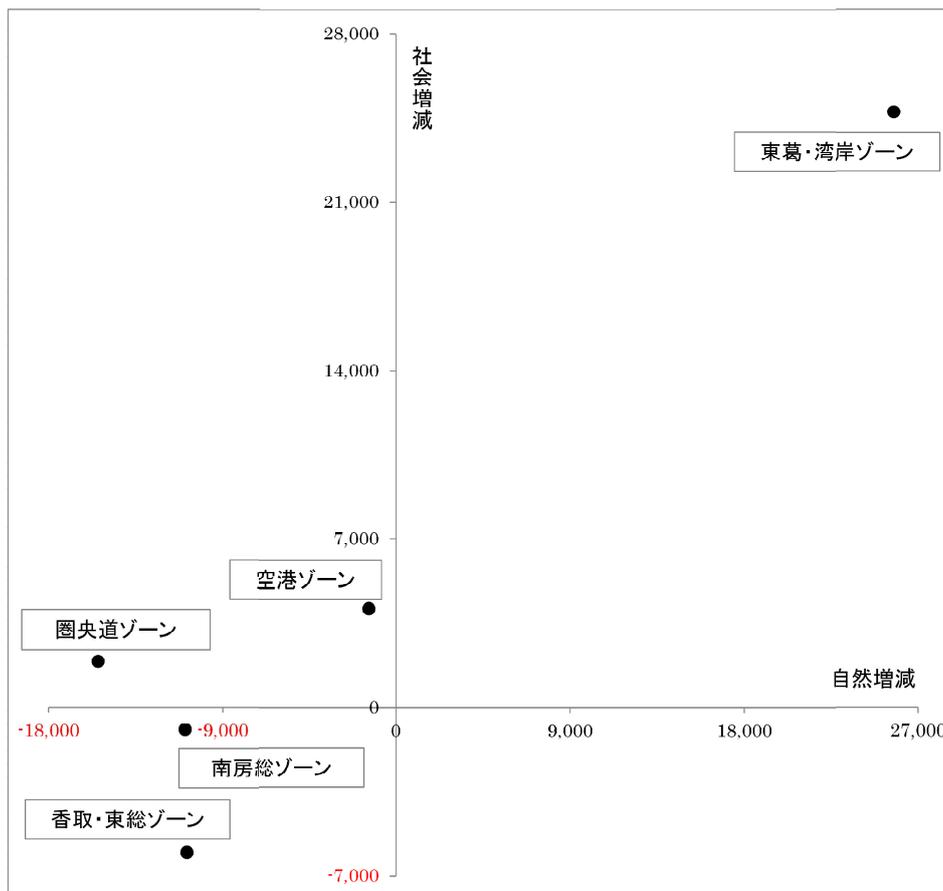
資料:総務省「国勢調査」、「人口推計」

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」(一部再計算)

(2) 各地域の状況

- ◆各地域の状況としては、直近5年の人口動態を基にすると「自然増かつ社会増となっている地域（東葛・湾岸ゾーン）」、「自然減だが社会増となっている地域（空港ゾーン、圏央道ゾーン）」、「自然減かつ社会減となっている地域（香取・東総ゾーン、南房総ゾーン）」に分類することができる。

県内各ゾーンの人口動態の状況



資料：平成22年～26年 千葉県毎月常住人口調査報告書(年報)

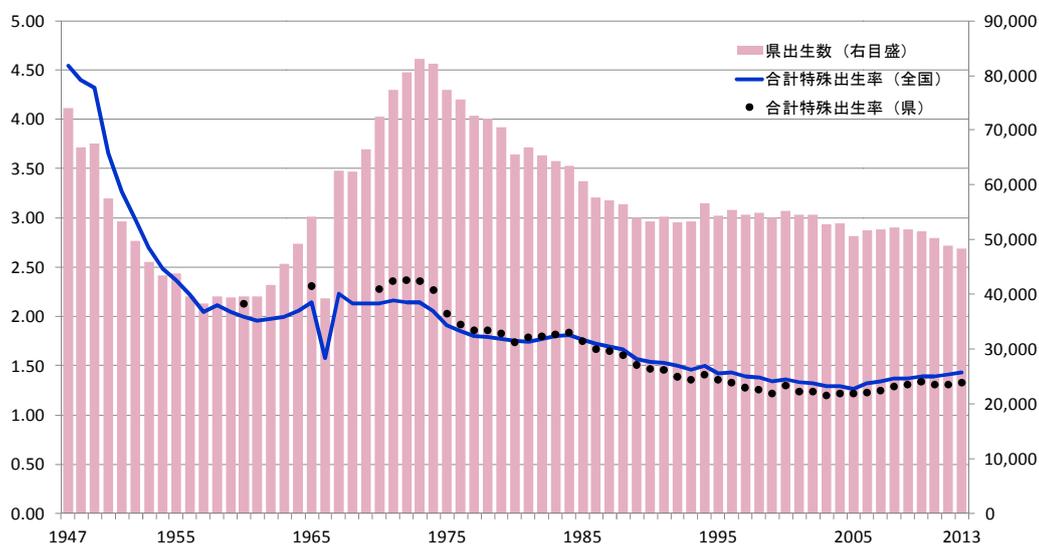
※各ゾーンについては、千葉県総合計画「新輝け！ちば元気プラン」の「地域の方向性」に基づくものであり、各ゾーンの数値については、それぞれ下記の市町村のデータを用いている。

- ・東葛・湾岸ゾーン：千葉市、市川市、船橋市、松戸市、野田市、習志野市、柏市、流山市、八千代市、我孫子市、鎌ヶ谷市、浦安市
- ・空 港 ゾ ー ン：成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、酒々井町、栄町、芝山町
- ・香取・東総ゾーン：銚子市、旭市、匝瑳市、香取市、神崎町、多古町、東庄町
- ・圏 央 道 ゾ ー ン：木更津市、茂原市、東金市、市原市、君津市、富津市、袖ヶ浦市、山武市、大網白里市、九十九里町、横芝光町、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町
- ・南 房 総 ゾ ー ン：館山市、勝浦市、鴨川市、南房総市、いすみ市、大多喜町、御宿町、鋸南町

(3) 出生・死亡、転入・転出の推移

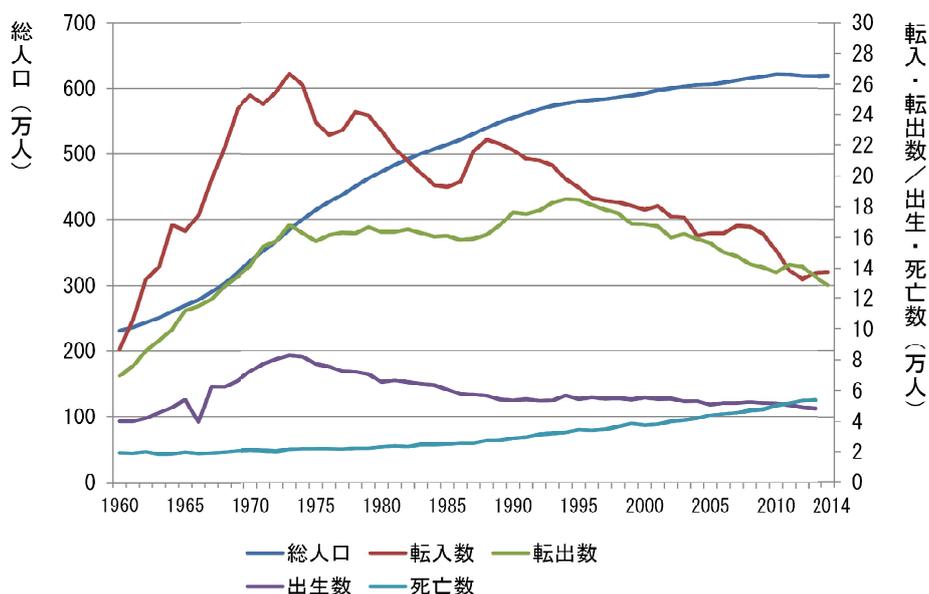
- ◆ 合計特殊出生率は、1985年から全国平均を下回り、2013年は1.33となっている。出生数は、1973年の82,960人をピークに減少し、2013年は48,343人で、ピーク時の約6割まで減少している。
- ◆ 出生と死亡による自然増減の状況をみると、自然増は、1973年をピークに縮小傾向にあり、2011年には死亡数が出生数を上回り、自然減に転じた。
- ◆ 転入と転出による社会増減の状況をみると、社会増は、1970年をピークに、増減を繰り返しながら、縮小傾向にあり、2011年には、東日本大震災の影響などもあり、社会減に転じた。しかし、2013年には再度社会増に転じた。

合計特殊出生率・出生数[全国・千葉]



資料：千葉県「衛生統計年報・人口動態調査」

出生・死亡数、転入・転出数の推移 (千葉県)



資料：総務省「国勢調査」、「人口推計」、「住民基本台帳人口移動報告」、厚生労働省「人口動態統計」

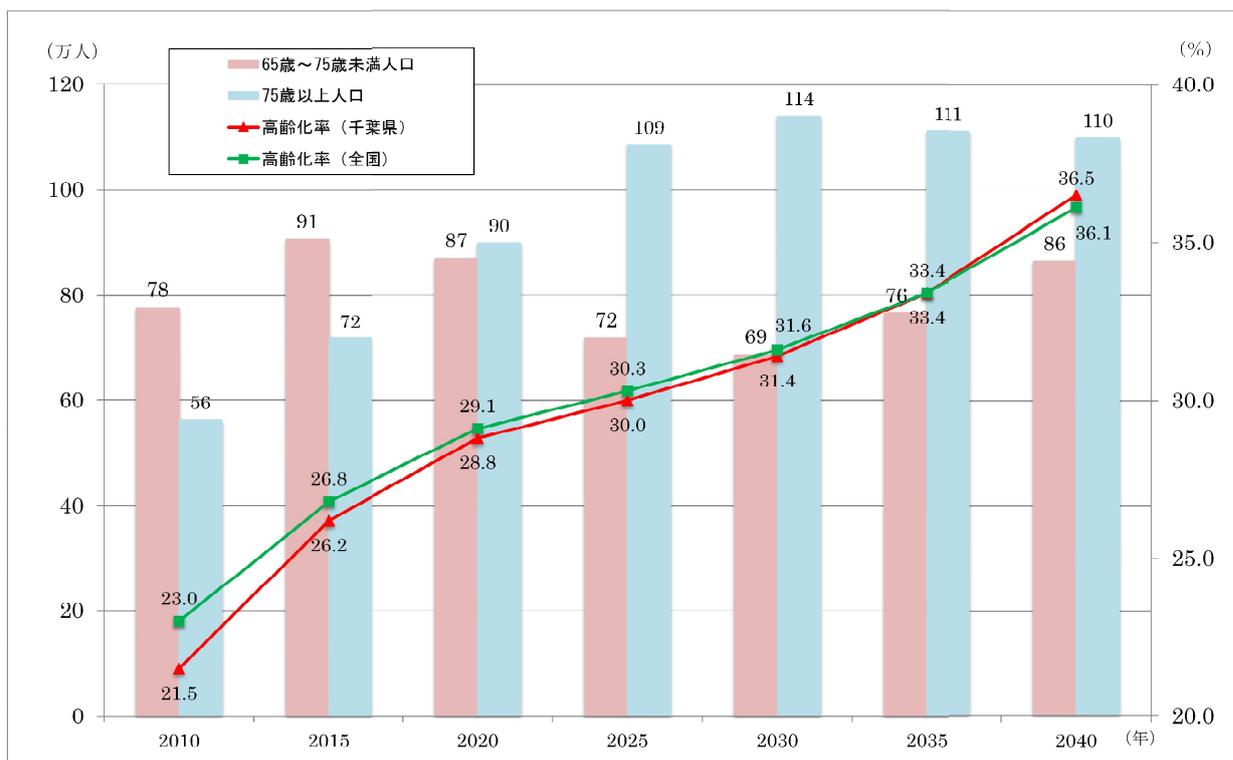
(4) 高齢化の状況

- ◆本県の 2014 年の高齢化率(※)は 25.3%であり、これは全国で 10 番目に低い数値であるが、65 歳以上人口の対前年増加率は、全国 2 位(4.4%)となっている。
- ◆社人研推計(一部再計算)によると、今後、急速に高齢化が進行し、高齢化率は 2040 年には 36.5%まで上昇し、2.7 人に一人が高齢者となる。

また、東京に近い地域では、老年人口の増加率が高く、75 歳以上の人口がさらに増加する。また、県の北東部や南部の地域の中には、老年人口は減少するが、年少人口や生産年齢人口の流出により高齢化率が高くなることもある。

※高齢化率：総人口に占める 65 歳以上人口の割合

千葉県の高齢化の状況



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」(一部再計算)

(5) その他調査・分析

- ◆上記の他、今後、地域間の人口移動の状況や雇用状況など人口動向に関連する事項について調査・分析を行う。

(6) 人口減少が将来に与える影響

(地域社会・インフラ)

- ◆人口の流出や高齢化等による都市や集落の機能低下
- ◆道路、上下水道など既存インフラの維持の困難化
- ◆利用者減による地域公共交通の縮小
- ◆空家、空き店舗の増加

(経済・雇用)

- ◆生産年齢人口の減少に伴う労働力不足
- ◆従業員の年齢構成のアンバランス化による円滑な技能継承の阻害
- ◆後継者不足による事業承継の困難化

(農林水産業)

- ◆担い手の高齢化と後継者不足
- ◆耕作放棄地の増加
- ◆森林の荒廃

(医療・福祉)

- ◆現役世代における社会保障関連経費の負担増加
- ◆医療、福祉、介護人材の不足

(教育)

- ◆子どもたちが規範意識やコミュニケーション能力を身につける機会の減少
- ◆学校存続の困難化

Ⅱ 人口の将来展望

(1) 将来展望に必要な調査・分析

◆人口の将来を展望するに当たっては、若者の結婚・出産等の希望や地元就職等に関する希望などを実現する観点を重視することが重要であることから、今後、人口ビジョンの策定にあたって必要と考えられる調査・分析を行う。

(2) 目指すべき将来の方向

◎「くらし満足度日本一」の千葉

「千葉で生まれてよかった」「住んでよかった」「働いてよかった」と誇れる「くらし満足度日本一」を実現し、あらゆる世代が笑顔で住み続けられる千葉を目指す。

この実現のため、次の3点の基本方向を設定する。

○国内外の人々が集う千葉の実現～人口の社会増～

人々に居住地として選ばれるには、通勤可能な範囲内において魅力ある雇用の場があることが重要である。

こうした中、本県は、地理的優位性（東京への近接性、豊かな自然）、優れた社会基盤（成田空港、アクアライン、圏央道、千葉港等）及びバランスの取れた産業（全国上位に位置する農業、水産業、工業、商業）など、優れた資源を数多く有することから、本県の持つ資源をフルに活用し、県内における雇用の場の拡大を図るとともに、都心へのアクセス強化や地域間における交通の利便性向上を図ることにより、地域に住み働ける県づくりを進める。

○親子の笑顔が溢れる千葉の実現～少子化への挑戦～

本県は、優れた都市機能を有する地域とともに、豊かな自然に恵まれた地域を併せ持ち、子育てに係る多様な価値観に対応できる環境を有する。

こうした優位性を生かし、多くの人たちから「子どもを産み育てるなら“千葉”」と選ばれる県を目指し、結婚、妊娠、出産及び子育ての各段階における支援や、働きながら子育てしやすい環境や充実した教育環境の整備などにより、若い世代が安心して結婚、出産、子育てのできる環境づくりを進める。

○オール千葉で支えあう安全・安心に暮らせる千葉の実現～人口減少社会に対応した県づくり～

人口減少社会においても、様々な世代の人や県、市町村、民間企業、団体等が連携協力して地域を支えることにより、県民が安全かつ安心に暮らすことができる県づくりを進める。

(3) 千葉県の将来人口

◆上記の調査・分析及び目指すべき将来の方向を踏まえ、若者等の希望をかなえる視点を考慮し、千葉県における人口の将来を展望する。

【展望イメージ】

- 出生率：2020年に○、2030年に○、2040年に○が達成されるケースを想定
- 総人口：2040年に○万人程度を維持